

国際園芸アカデミーの現状と課題



岐阜県農政部

— 目次 —

設置条例・教育理念・教育目標	P. 1
学校の概要	P. 2
専攻コースの概要	P. 3
授業のカリキュラム(2年間の開講科目)・	P. 4
施設概要	P. 5
開学から現在に至るまでの経緯	P. 9
受験者数と入学者数	P. 10
学生の状況	P. 11
学生の就職状況	P. 12
教員の状況	P. 14
業界関係者ヒアリング 主な意見	P. 15
国際園芸アカデミーに係る運営向上プラン	P. 16
スケジュール	P. 17

設置条例・教育理念・教育目標

設置条例

花と緑に関する専門的かつ総合的な知識及び技術を有する人材を育成することにより、花と緑の産業の発展及び文化の振興を促進し、健康でこころ豊かな生活を創造するため、可児市に岐阜県立国際園芸アカデミーを平成16年4月に設置

教育理念

花と緑の産業と文化の発展に寄与し、健康でこころ豊かな生活を創造できる専門的かつ総合的な知識及び技術を修得した人材の育成

教育目標

花と緑に関する高度な知識と技術を持ち、産業を現場で支える担い手として活躍できる実践者の育成

学校の概要

(1) 設置形態

- ・学校教育法に基づく「専修学校」
- ・開校時期：平成16年4月1日
- ・設置場所：可児市塩1094-8

(2) 入学資格

- ・高等学校卒業程度以上

(3) 修業年限

- ・マイスター科 2年制

(4) 専攻コース

1学年後期から専攻コースを選択

- ・花き生産コース
- ・花き装飾コース
- ・造園緑化コース

(5) 総定員

- ・40名（1学年20名）

(6) 進級・修了要件

第1学年で修得すべき科目の時間数

- ・900時間以上

修了要件

- ・1,800時間以上

(7) 推奨する資格の取得支援

資格取得に向けた授業科目を開講

- ・園芸装飾技能士
- ・造園技能士
- ・フラワー装飾技能士
- ・造園施工管理技士
- ・初級園芸福祉士

(8) 生涯学習

「花と緑」に関心のある園芸業界の実務者を対象とした生涯学習部門を開講

＜一般向け＞

- ・植物の育て方講座
- ・花育講座
- ・花壇づくり講座
- ・花の管理基礎講座

＜実務者向け＞

- ・公園の管理運営実践講座
- ・園芸福祉講座
- ・生産者向け商品企画提案

専攻コースの概要

◆花き生産コース

切り花、鉢花、花苗等の生産管理技術のほか、商品提案や出荷等の流通・販売についても学び、生産から販売までの技術・知識を習得

栽培実習



◆花き装飾コース

フラワーアレンジメント、寄せ植え、園芸装飾など、花と緑を活用した花束からディスプレイまで幅広く学び、装飾技術や管理手法を習得

装飾実習



◆造園緑化コース

庭園や緑化などによる快適な生活環境の創造について学び、デザインや設計、施工、管理技術などを習得

造園実習



授業のカリキュラム(2年間の開講科目)

	1年次			2年次		
	前 期	後 期		前 期	後 期	
花き生産	栽培・生産論 植物生理学 花き生産流通実習1	花き生産流通実習2 生産プロジェクト実習1		基礎育種学 生産プロジェクト実習2 卒業研究・卒業制作1	卒業研究・卒業制作2	
花き装飾	園芸装飾実習1 フラワーデザイン実習1 3級フラワー装飾技能 検定対策実習	園芸装飾実習2 フラワーデザイン実習2	コース選択	フラワーデザイン実習3 2級フラワー装飾技能検 定対策実習 花き装飾演習 卒業研究・卒業制作1	卒業研究・卒業制作2	
造園緑化	花修景実習1 造園学概論 造園施工・管理実習1 3級造園技能検定対策 実習	花修景実習2 造園施工・管理実習2 測量・製図実習 CAD製図実習		花修景実習3 造園施工・管理実習3 造園計画演習 2級造園技能検定実習 卒業研究・卒業制作1	造園工学・施工論 卒業研究・卒業制作2	
共通	植物管理基礎実習1 Global Communication Horticulture1 園芸流通概論	植物管理基礎実習2 Global Communication Horticulture2 伝統園芸実習 基礎会計	商品動向リサーチ1 キャリアデザイン1 職場体験実習1 園芸福祉論・実習 園芸色彩学	植物管理基礎実習3 商品動向リサーチ2 キャリアデザイン2 職業体験実習2 園芸文化演習 海外視察研修 起業・経営シュミレーション	職業体験実習3	

◆1年次前期:全コースを網羅した「花と緑」の基礎を学習

◆1年次後期～2年次:花き生産、花き装飾、造園緑化コースのいずれかを選択し、花と緑の企業と連携した実践重視の授業を行い、高度な専門性を持った人材を育成

施設概要(建物等)

①本館



- ・講義室、ゼミ活動スペース
- ・会議室・教員等の執務室
(全コース)

②研修教育棟



- ・図書室、講義等の実施実習室
(全コース)

③実習棟



- ・園芸・装飾実習及び検定実習等の実習室
(花き生産コース)
(花き装飾コース)

④温室ハウス

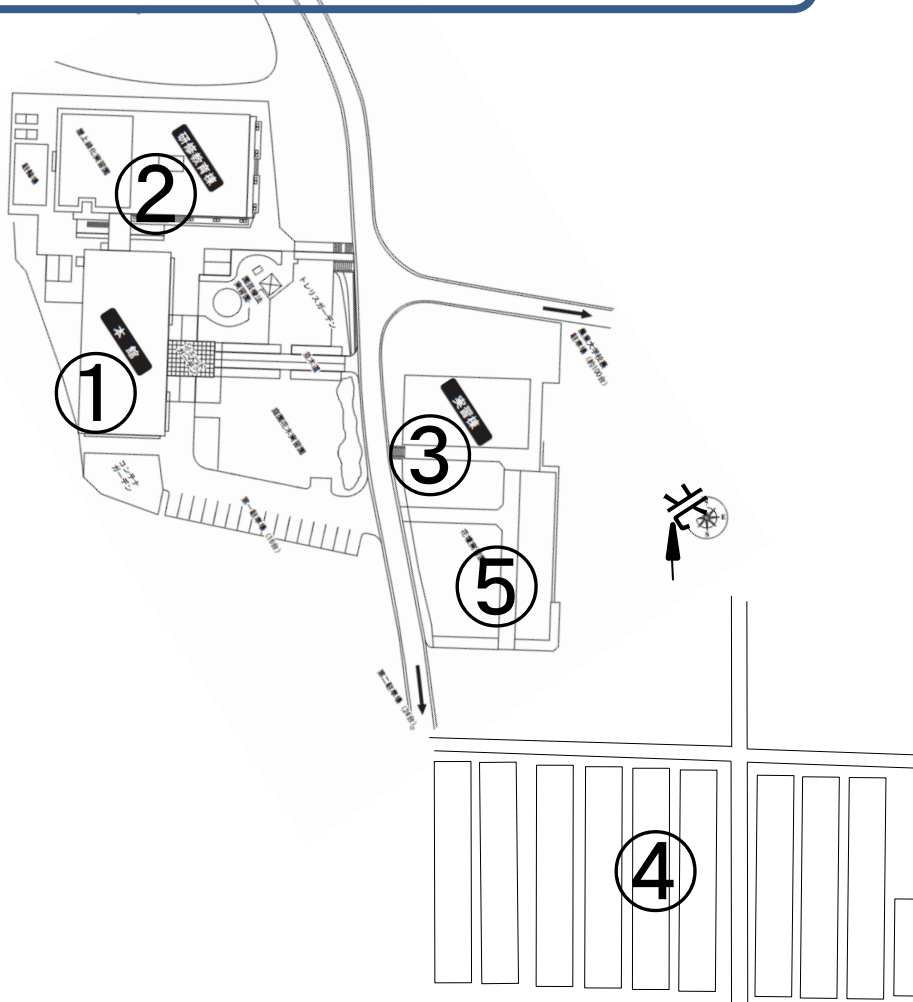


- ・栽培実習
(花き生産コース)
- ・装飾実習
(花き装飾コース)

⑤実習園



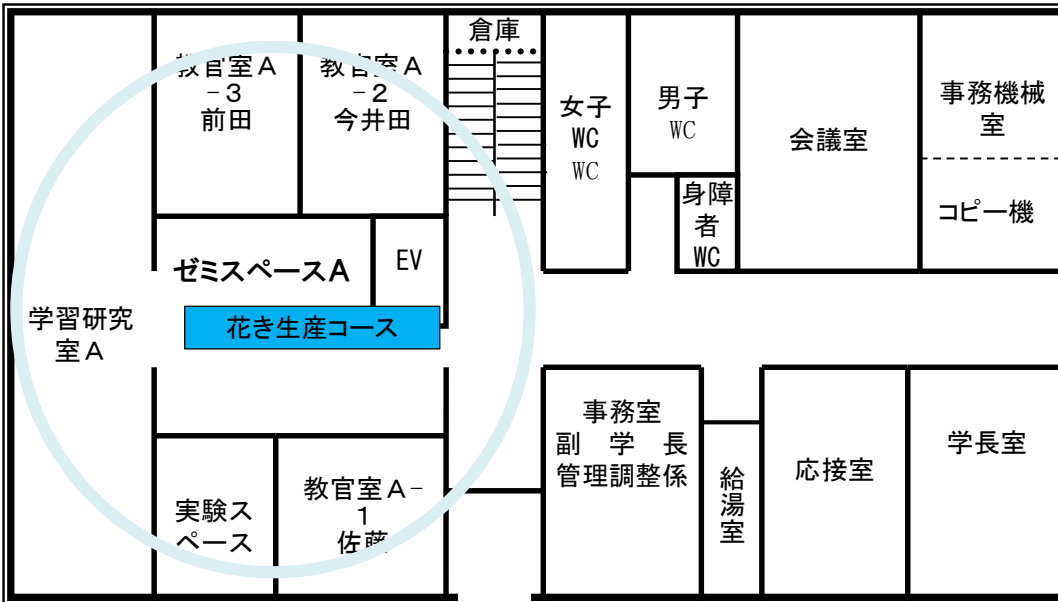
- ・造園施工実習
- ・花修景実習
(造園緑化コース)



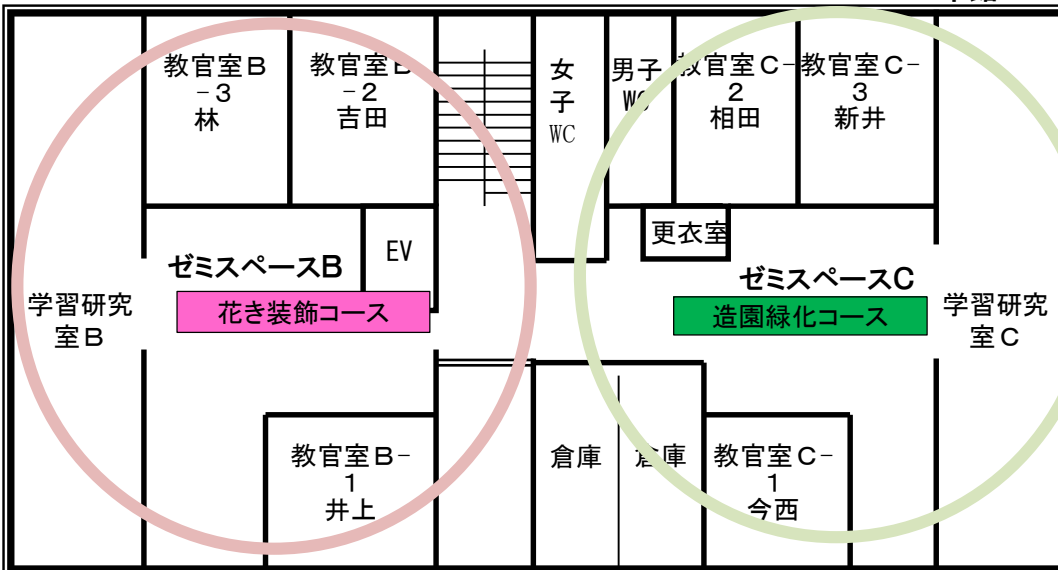
施設概要(本館)

本館(995m²)

本館 1F

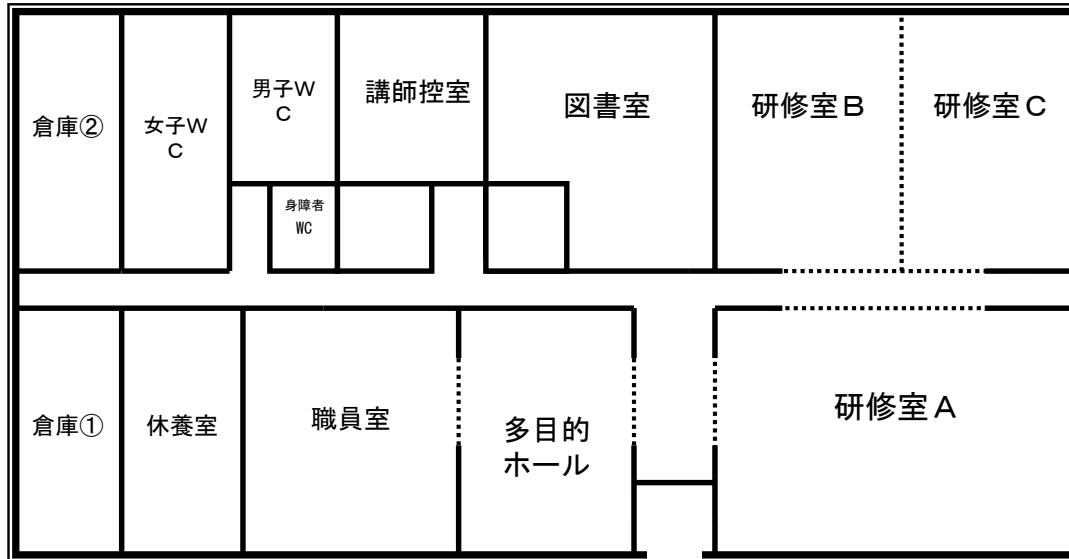


本館 2F



施設概要（研修教育棟・実習棟）

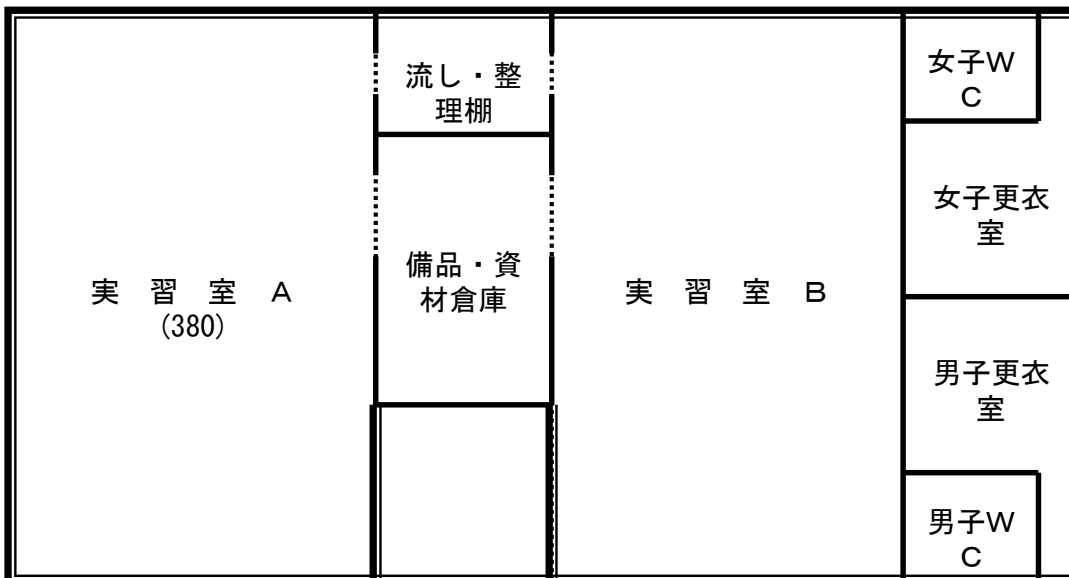
研修教育棟(696㎡)



研修室A



実習棟(259㎡)



実習室B



開学から現在に至るまでの経緯

平成16年度

岐阜県立国際園芸アカデミーを開学

- ・学校教育法に基づく専修学校
- ・上級マイスター科(コース:生産、装飾、環境) 定員：1 学年10名 修業年限:4年
- ・マイスター科(コース:生産、装飾、造園緑化) 定員：1 学年20名 修業年限:2年

平成20年度

国際園芸アカデミー検討委員会を設置

- ・岐阜県行財政改革指針策定に伴い、設立効果の検証と今後の運営方針を検討
- 修了要件(修得すべき科目の時間数) 2,400→2,100時間に改正

平成22年度

上級マイスター科への学生募集を停止

平成25年度

上級マイスター科を廃止。マイスター科のみとなる

平成29年度

「職業実践専門課程」を文部科学省より認定

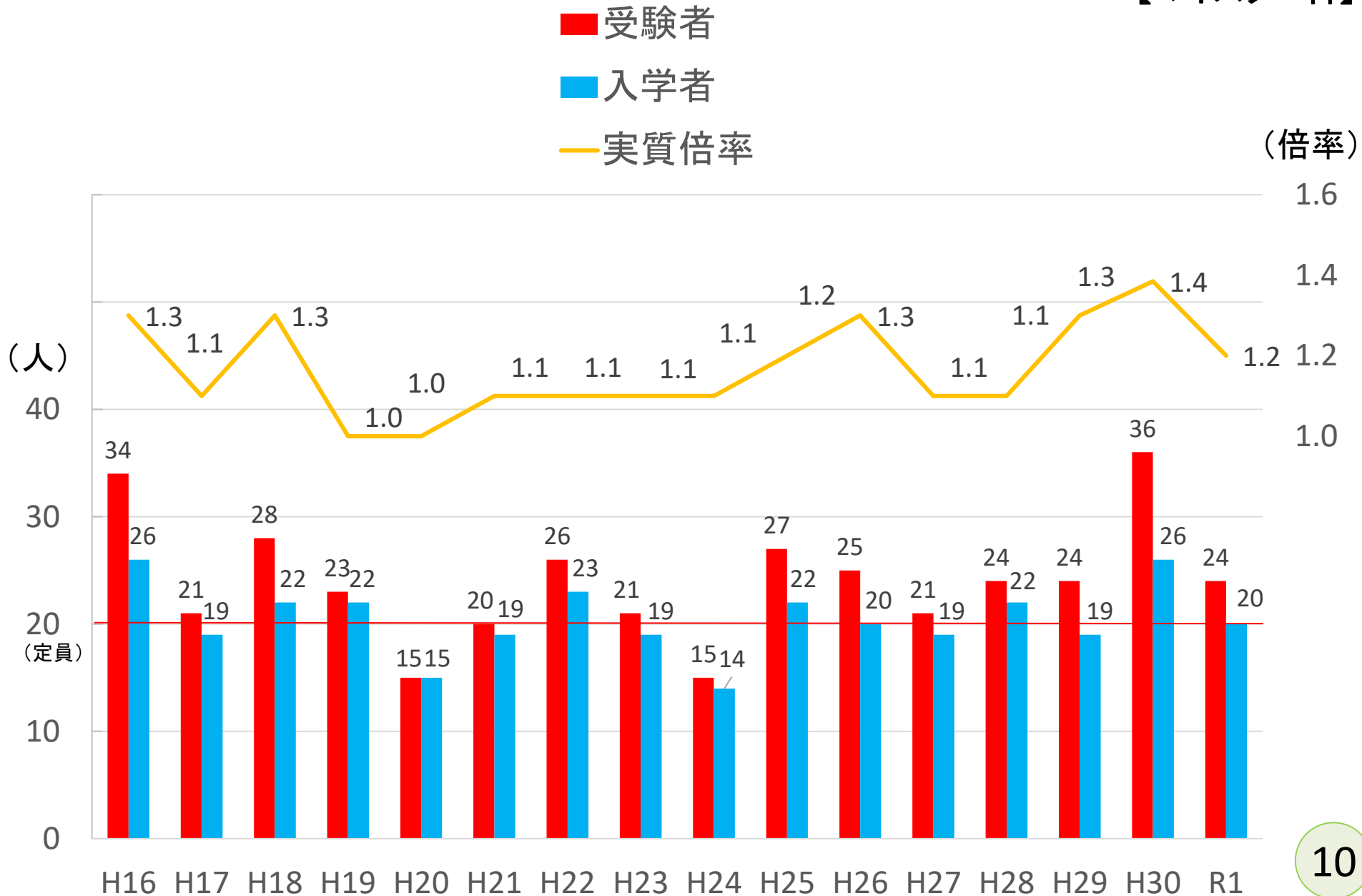
- ・企業や生産者等と結びついた実践的な授業を実施

平成31年度

修了要件(修得すべき科目の時間数) 2,100→1,800時間に改正

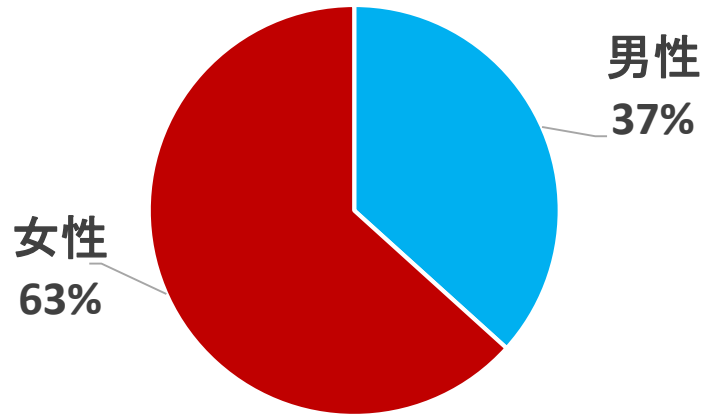
受験者数と入学者数

【マイスター科】

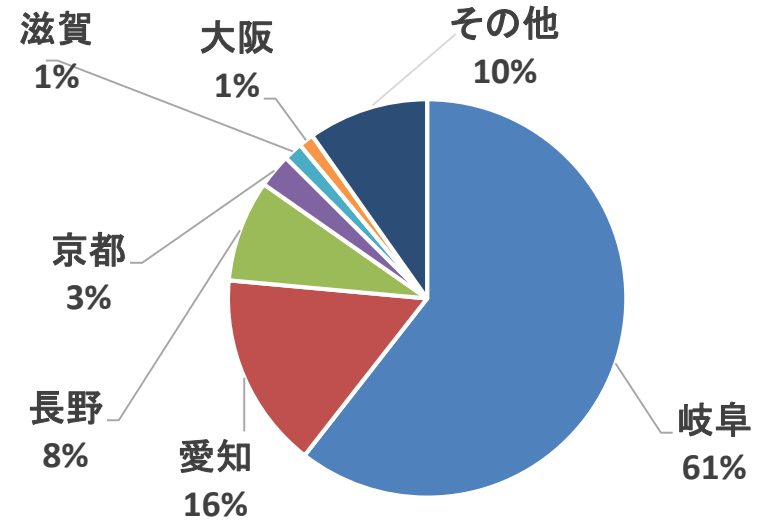


学生の状況

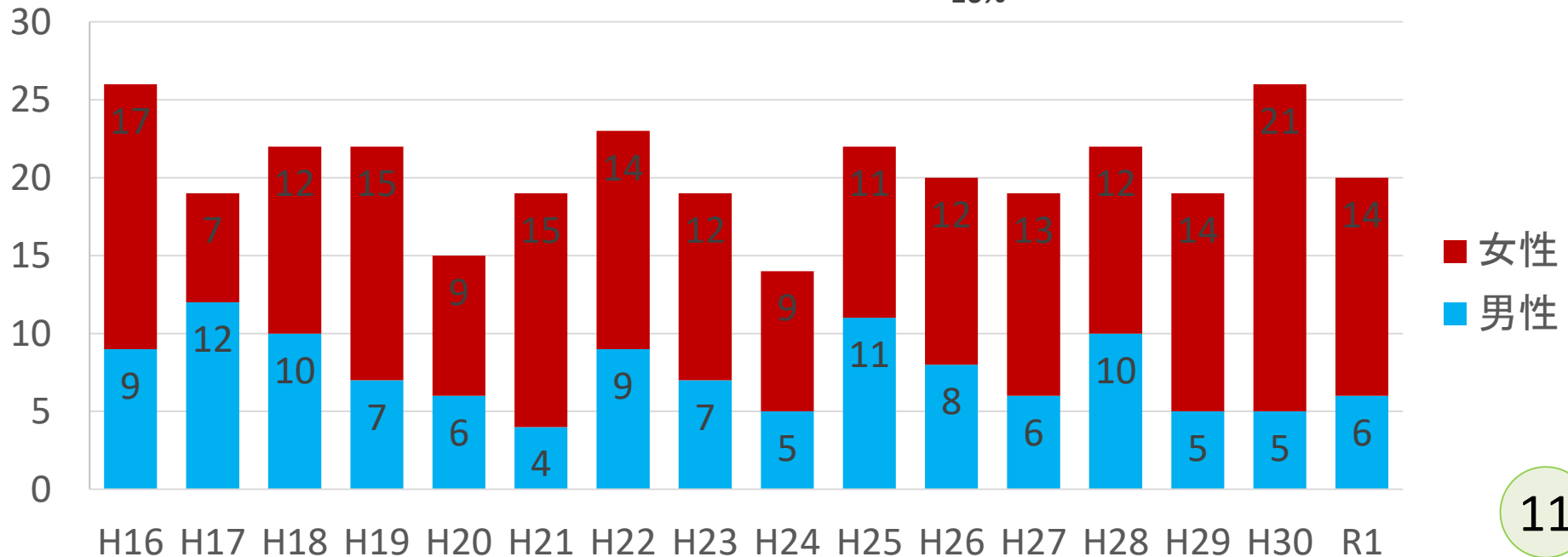
平成16年～令和元年度男女比率



【マイスター科】
平成16年～令和元年度出身地比率



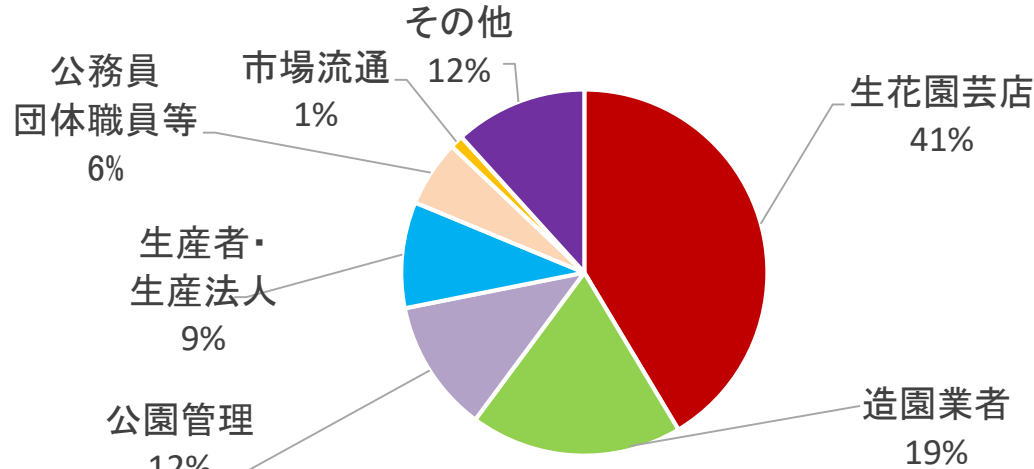
(人)



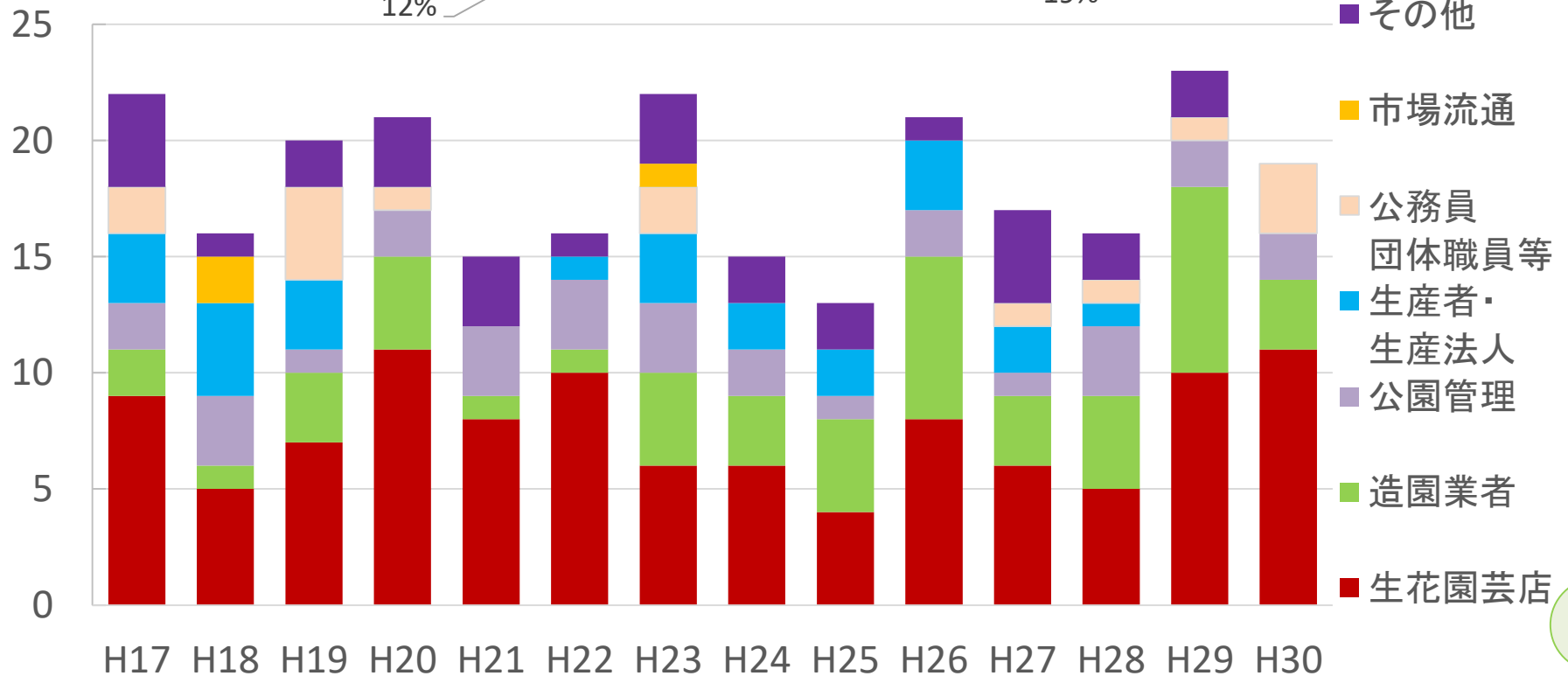
学生の就職状況（就職先）

平成17～30年度までの就職先比率

【マイスター科】



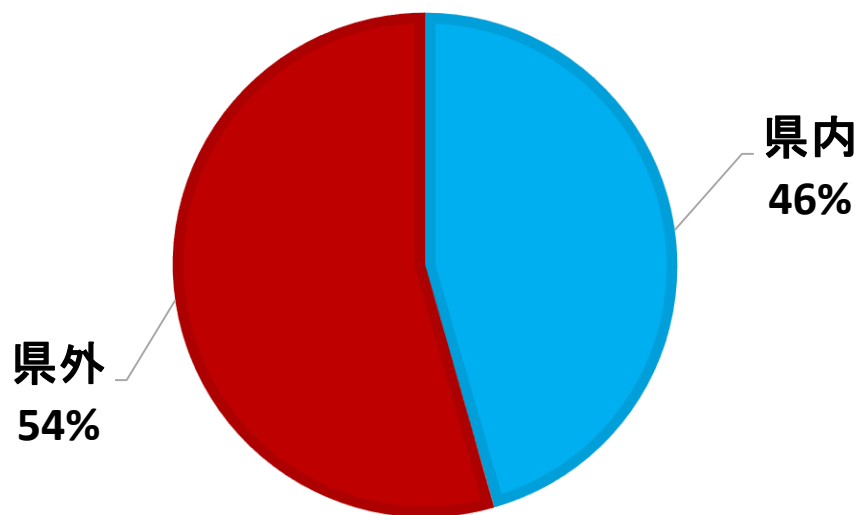
(人)



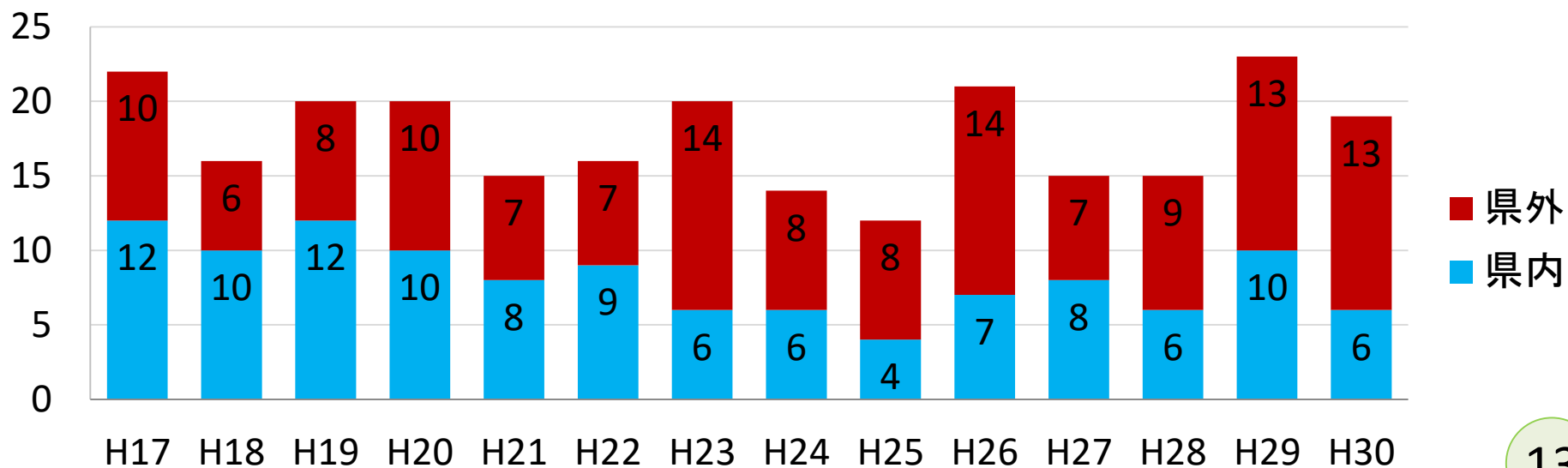
学生の就職状況(県内外)

【マイスター科】

平成17～30年度までの岐阜県内外就職比率



(人)

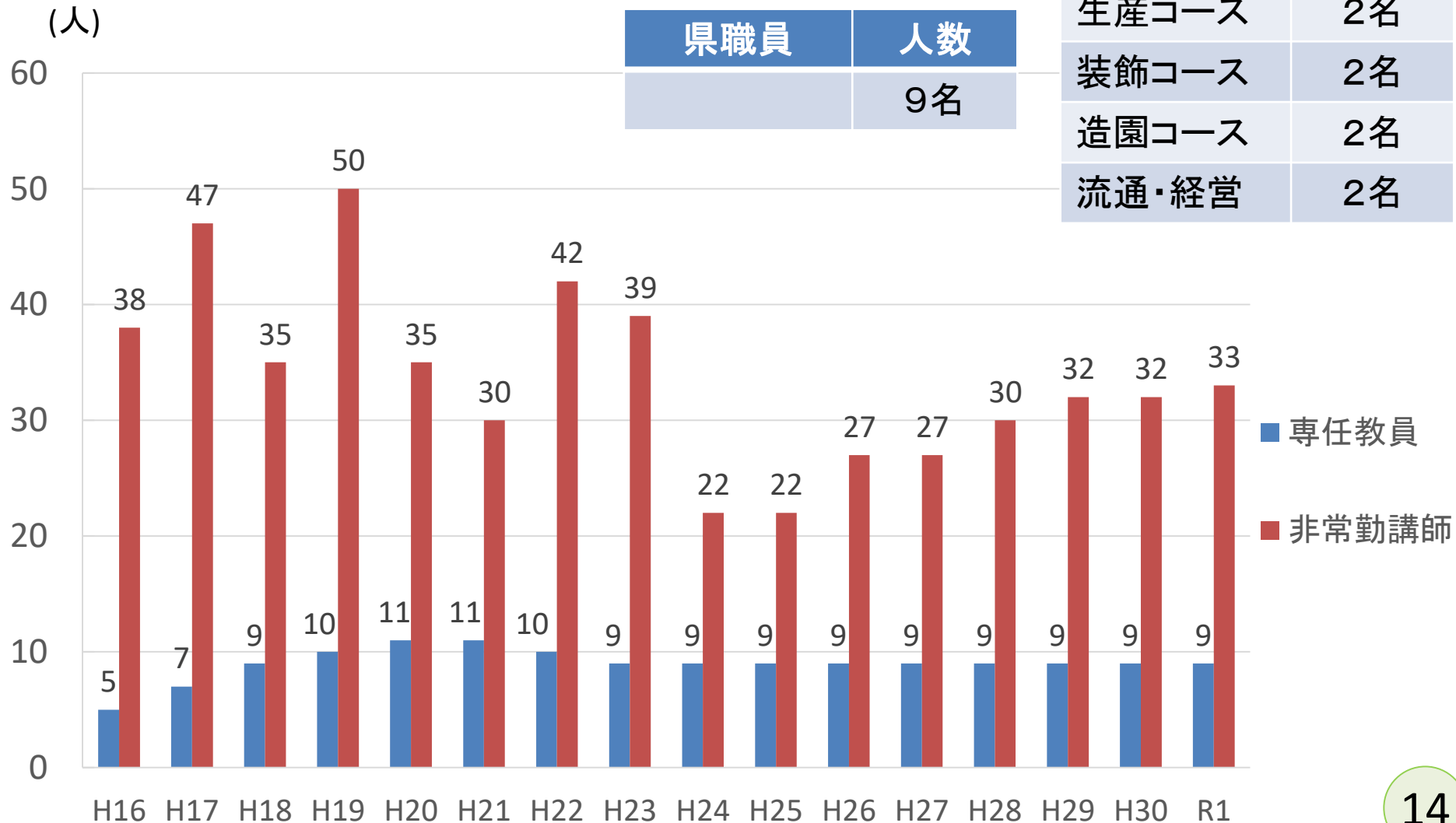


教員の状況

非常勤講師	人数
	33名

専任教員	人数
学長	1名
生産コース	2名
装飾コース	2名
造園コース	2名
流通・経営	2名

県職員	人数
	9名



業界関係者ヒアリング 主な意見

分類	対象	現状に対する意見	改善の方向性
花生産者	学生	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身の専攻コース以外への視野を広げるため、他の専攻コースにも関心を持ってほしい ・農業の魅力をもっと知ってほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の専攻コースとの連携授業の開催 ・自己責任で取り組む実習を増やし、責任感の醸成を図る
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学校設立のコンセプトや将来ビジョンが見えない ・実践に役に立つような実習をしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・組織としてのビジョン、目標・戦略等の管理機能強化 ・最新技術情報の収集による実習内容の改善
生花 園芸店	学生	<ul style="list-style-type: none"> ・社会に出れば園芸全般の総合的知識が必要となる ・優れたパソコンスキルをもっと活かしてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のやる気に応じたコース横断的なカリキュラムの選択 ・パソコンスキルを活かしたプレゼン能力の向上
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・生産現場や企業などともっと接触する機会をもっと刺激を受けてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ・業界とのネットワークづくりや地域との交流を促進
造園	学生	<ul style="list-style-type: none"> ・今後はIT能力の高い学生のニーズが高まる ・インターンでは意欲的な姿勢が見られ、好印象 	<ul style="list-style-type: none"> ・施工だけでなく、ITを活用したトータルなスキルの習得 ・現場における経験や造園業界の関心を高める
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・もっと安全管理技術を身につける必要がある ・学生が創意工夫し、改善・実行する能力の醸成 	<ul style="list-style-type: none"> ・機械・器具の安全な取り扱いに関する教育・実習の強化 ・卒業研究における課題発見・問題解決能力を醸成
流通関係	学生	<ul style="list-style-type: none"> ・学生のスキルは即戦力レベルにまで至っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・儲ける仕組み・喜びを実感できる教育や体験の提供
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針や教育目標が具体的でなく分かりづらい 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育方針の明確化、具体化
園芸福祉	学生	<ul style="list-style-type: none"> ・園芸アカデミーがどんなことを行っているかわからない 	<ul style="list-style-type: none"> ・花フェスタ記念公園の園芸福祉花壇管理や、園芸福祉実践活動に参加し、アカデミーの認知度やイメージ向上を図る。
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・地域との交流の機会が少ないため、認知度が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動への積極的参加による認知度向上
公園管理	学生	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎知識が少し足りないように見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実習やインターンシップ時における準備の徹底
	学校	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の能力を伸ばすことが出来る教育が必要 ・県内就職率が低い 	<ul style="list-style-type: none"> ・育成方針や教員の特性を考慮したカリキュラムの見直し ・地元業者やステークホルダーの方々への理解促進

スケジュール

時 期		内 容	
令和 元年度	9月	花き業界関係者への ヒアリング	
	10月	第1回有識者会議開催	「国際園芸アカデミーの在り方と運営向上について」
		先進地事例調査等	
	12月	第2回有識者会議開催	(仮)「新生園芸アカデミーの基本コンセプトについて」
	2月	第3回有識者会議開催	(仮)「基本構想柱建て及び教育方針等について」
令和 2年度	6月	第4回有識者会議開催	(仮)「基本構想骨子(案)について」
	10月	第5回有識者会議開催	(仮)「基本構想(案)について」
	2月	第6回有識者会議開催	(仮)「基本構想策定および今後の進め方について」